

下阿毘縁下・中集落「集落営農ビジョン」(規模拡大型)

作成日：令和2年8月26日

修正日：令和 年 月 日

市町村名	日南町	組織名	下阿毘縁営農生産組合
1 地区の範囲 日野郡日南町下阿毘縁地区			
2 地区の概要			
水田面積	15.2ha	主な水田栽培作物	水稲 農家数 13戸
認定農業者数	0経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	3経営体
3 組織の概要			
設立時期(規約等の制定日)			平成29年 3月 2日 構成農家数 3戸
組織形態(該当形態に○を記入) ・共同利用型 ・作業受託型 ・協業経営型			
4 集積(経営、機械の共同利用及び作業受託)の目標			
	【項目】	【現状】	【目標】 令和4年度
農地 の 集積	集積面積 A	11.8ha	12.3ha
	対象水田面積 B	15.2ha	15.2ha
	集積率 A/B	77.7%	81.5%
	地区外集積面積 C	0ha	0ha
	経営面積 A+C	11.8ha	12.3ha
世代交代への取組			
新規就農者の活動参画			
5 添付資料 集積状況一覧(別表1、2)、機械の利用計画(別紙)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等)			
注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。			
注2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧(別表1、2)により作成すること。			

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

下阿毘縁営農生産組合は平成29年3月2日に立ち上げたのち、当初のメンバー3名で、下阿毘縁中地区・下地区を範囲として農地集積に取り組んでいる。第3期決算終えた段階で集積農地面積は徐々に拡大傾向にある。

日南町の農業組織は、どこも同じように構成員の高齢化を迎えている現状にあるが、そのような状況で年々衰える体力と相談しながら行う作業が多くあるため、今後は早急に省力化を図りながら、後継者を確保したい。

省力化対策としては、スマート農業技術の導入を検討し、極力機械化を図りたい。また、将来の担い手へスムーズにバトンタッチするために、ほ場の大区画整備に向けての地域の話し合いを行うなど、少数でも運営できる体制を地域的に構築しなくてはならない。

2 水田の作付計画（水稻以外の作物を含む）、活用方針・具体策

現在、当組合は水稻栽培を中心に行っており、水田が標高500メートル以上に位置しているため、収量は少なめであるが、高品質なコシヒカリとヒメノモチの栽培が可能である。そのほかの水稻作付が困難な圃場については、そばの栽培を行っている。

今後もこの高標高地域で高品質米の栽培を継続しながら、商品の差別化を図り、販売方法を多様化してゆく。（現在、「あびれ高原のお米」とデザインした米袋を作成済。）

3 農業用機械施設の効率利用

現在、当組合の農機具等に関しては、設立当初から組合員が自己所有の機械で対応してきたため、組合所有の機械はない状況にある。しかし、経年劣化による故障や部品交換が頻発してきたことから、新たに組合として機械整備をおこない、修繕費等の経費削減を図りながら規模拡大に対応する。特に籾乾燥、籾すり作業の時間短縮を図り燃料及び電気代等の経費削減を図る。

また、現有する個人所有の機械においても、当組合への集約化を図るなど、計画的な整備計画を推進することにより、さらなる経営の効率化に努める。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

組合が活動する地域の若手はほとんどが会社員である。農業機械設備の整備を進めることで、若手が後継者となる際の受け入れ体制を充実していく。

また、若手が将来、後継者となるためには経営ビジョンを明確にする必要がある。そのために、若手と定期的な話し合いを重ねることにより、当組合の体制にとどまることなく、阿毘縁地区全体の営農維持体制について考え、若手をバックアップしていくことで経営移譲をすすめていく。

5 経営多角化の方針・具体策

現状、鳥取西部農協への出荷がメインとなっているが「あびれ高原のお米」による消費者への直接販売、ブランド化を図っていくこととしている。

Ⅱ 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円) *税抜き	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
籾乾燥機	45石	1台	2,010,000	令和2年9月	○
籾摺り機	5インチ	1台	1,015,000	令和2年9月	○
選別計量機	1,920 kg/h	1台	360,000	令和2年9月	○
合計			3,385,000		